



2025年

富士フイルム・

FujiFilm Green Fund

グリーンファンドに

ご応募ください

締め切り

2025.5/7 水

※応募要項の公開・配布期間は3月からです。  
応募要項のご請求は3月以降にお願いします。

富士フイルム・グリーンファンドは、今年（2025年度）で42年目を迎え、昨年までの助成先は230件となりました。身近な自然を守るために地域に根づいた活動をしてきた方、あるいは環境保全の研究を実際に進めてきた方で、この助成によって大きな進展が望める活動や研究を対象としています。

今年度は8件程度、総額850万円の助成を予定しています。

募集要項  
をご希望  
の方

ハガキまたはファクスに住所・氏名・電話番号・研究あるいは活動助成の別を明記の上、下記宛までご請求ください。また、一般財団法人自然環境研究センターのウェブページ (<http://www.jwrc.or.jp/>) から当該文書をダウンロードすることができます。

〒130-8606 東京都墨田区江東橋3-3-7 (一財)自然環境研究センター内  
公益信託富士フイルム・グリーンファンド事務局

TEL.03-6659-6310 (平日10:00～17:00) FAX.03-6659-6320 <http://www.jwrc.or.jp/>

2025 年度

# 富士フィルム・グリーンファンドにご応募ください。



## 応募資格

1. 活動助成を申請するものは、身近な自然の保全や、自然とのふれあい活動を積極的に行っていること
2. 研究助成を申請するものは、身近な自然環境の保全・活用の促進に関する具体的な研究や、ふれあいの場としての緑地の質的向上を目指した実証研究等を行っていること

## 対象となる活動 / 研究

1. 営利を目的としない活動及び研究
2. 活動及び研究が行われるフィールドは、日本国内であるもの
3. 活動助成の場合には、活動フィールドができる限り申請者（申請団体）によって既に確保されている等、活動フィールドの基盤がしっかりしているもの  
研究助成の場合には、フィールドでの研究に対し地権者の許可もしくは協力関係が保たれているもの
4. 研究助成については、研究成果を調査対象地域に還元することを目的として、地域でのシンポジウムや発表会等を開催するなど、積極的に地域の人との交流にも取り組むこと
5. 個人もしくは団体申請において、活動及び研究の実績があるもの（ある程度実績があり、発展的な活動や研究を行うための申請であれば対象となる）
6. 個人による申請の場合、助成金の使途が助成の趣旨に沿って適確・厳正であり、助成金の使途において本人あるいは親族等、特別な関係のある者に利益を与えないもの
7. 団体による申請の場合、代表者または管理者の定めのある団体で、役員その他の機関の構成、選任方法、その他事業の運営に重要な事項が特定の者、あるいは特別の関係者等の意志に従わずに、決定・運営されている団体。また、特定の者等に特別の利益を与えていない団体
8. 大学に所属する教職員や研究者が行う研究については、他の研究費による成果との切り分けが明確なもの
9. 科学研究費による研究が好ましいと思われる研究は、助成対象としない
10. 過去に当ファンドの助成を受けた個人・団体は助成対象としない



## 過去 2 年の助成先

※ 団体名・所属名等は助成当時のものです

### 2023

- ・「森の忍者・ムササビ」観察会及び生息調査／矢野郷自然観察会／熊本県
- ・佐賀の田舎から心を育み、生きる力を養う自然体験活動を届ける／秀島彩女／佐賀県
- ・子どもたちの日常の中に自然を取り入れるきっかけを与える事業  
一般社団法人 Camp／福岡県
- ・猪名川河川域の植物調査（絶滅危惧植物の保全・増殖および昆虫が利用する植物のフェノロジーの製作）／大阪府立園芸高等学校ハニービーサイエンスクラブ／大阪府
- ・VRも活用した石狩川流域の湿地環境保全・利活用の普及活動  
石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク／北海道
- ・越冬環境の泥と水の深さがサダガエル幼生の越冬成功と翌春以降の成長・発生に与える影響：江やビオトープを重視した保全対策の改善に向けて  
高津邦夫（新潟大学生涯自然共生科学センター）／新潟県
- ・大雪山国立公園の利用者とエゾナキウサギの良好な関係の構築のための自然・社会科学的  
研究／渡辺健二（北海道大学大学院地球環境科学研究院）／北海道
- ・山陰地方と北陸地方のミナミアカヒレタビラとヤリタナゴの分布および地域固有性の調査  
野口亮太（NPO 法人流域環境保全ネットワーク）／三重県
- ・利根川沿いに生息する生物は交雑によって多様化しているか？  
石井麻人（東北大学理学部）／宮城県
- ・環境保全機能と集落の自治機能を損なわない小規模集落水道の存続条件  
野田岳仁（法政大学現代福祉学部）／東京都

### 2024

- ・アボイ岳の花を次世代へ！～アボイドリームプロジェクト～／アボイ岳ファンクラブ／北海道
- ・ドングリランドの里山林の生物相回復による人材育成とフィールドミュージアム化  
特定非営利活動法人どんぐりネットワーク／香川県
- ・北海道東トトレイル利用促進のための歩行データの調査・研究  
一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所 道東支部／北海道
- ・子どもたちと繋ぐ里山・多世代参加型竹林で遊び学び守る体験学習の場作り  
竹林ボランティア倶楽部／山口県
- ・地域の森の存在意義を子どもの遊び場、育ちの場という視点でとらえ、地域の森の保全活動につなげる  
南野川特別緑地保全地区管理運営協議会 野川はあも／神奈川県
- ・人権の森「多磨全生園」の自然とのふれあいを通して育む「生きる力」  
社会福祉法人土の根会 花さき保育園／東京都
- ・身近な環境のよさやその変化を感じとれる「海辺の体験学習フィールド」づくり  
気仙沼海の子プロジェクト／宮城県
- ・池干しによるコイの除去は水生生物の多様性を回復させるか？  
渡邊繁也（兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科）／兵庫県
- ・声紋調査を用いたトウキョウダルマガエル（*Rana porosa porosa*）と水稲作の農事暦及び  
栽培種の関係について 桑原実希（宇都宮大学）／栃木県
- ・三重県中部におけるカヤネズミの繁殖生態調査と「田んぼの小さなネズミたち」学習キットの製作  
田村香里（三重県総合博物館）／三重県
- ・野生哺乳類による遊歩道の利用が樹木の世代更新に与える影響  
井上輝紀（京都大学理学研究科（生態学研究センター）） 滋賀県

\*写真は 2024 年度の助成先より

